

宝寿の風

第4号
発行者
宝寿院住職
田辺信雄
TEL 62-5739

宝寿院住職 田辺信雄

檀家のみなさまには、日頃より宝寿院護持のために、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、東日本大震災発生から一年が経過しましたが、日本人は、高度経済成長期のころから、幸せな生活を願い、物質的・経済的な豊かさをずっと追い求めてきました。しかし、昨年の3月11日を境に、その価値観や意識は大きく変わったと感じています。

幸福な人生や心の安らぎは、物質的・経済的な豊



第2回懐古庵ふるさと祭

かに比例するものではないということ、また、平穩な生活はいつまでも続くものではないといううことに、改めて気づかされました。

これまでの個人主義的な

身勝手な生き方を見直し、家族や地域の絆を大切にする流れも生まれています。それは、仏教の『縁(因縁果)』の教えや『陰徳』の考え方にも通じるものです。

これからのお寺は、もつとその役割を自覚し、積極的に地域や社会に貢献していかなければならないと考えています。そして、それこそが仏教者に課せられた大きな使命の一つ『菩薩行』であり、わが宗門曹洞宗の開祖道元禅師さまがお示しになられた『発願利正』(他のために生きる実践行)の教えにかなうものだと私は信じています。

檀家のみなさまのご多幸を心よりお祈り申し上げます。

合掌



平成二十三年 寄進者ご芳名

昨年中に檀信徒の方々より、ありがたいご寄進を頂きましたのでご紹介致します。

- 一、本堂用大鑿子 服部恒二郎様
- 一、懐古庵掲示板 宝寿院護持会様

本堂で法事等を行う際に使用する鳴らし物には、主に鑿子(けいす)と木魚がありますが、この度は、高価な国産(富山県高岡産)の大鑿子をご寄進いただきました。熟練した職人さんが、時間と手間を掛け手作りしたもので、余韻のある澄んだ音が堂内に響きます。近隣のお寺にはない大変立派な物で感謝に堪えません。

また、懐古庵にアルミ製の掲示板をご寄進いただきました。屋根やガラス戸の付いた本格的な物で、夜間になると自動点灯する照明も付いています。

これからは、懐古庵の行事案内だけでなく、曹洞宗本山等からのお知らせなども掲示していきたいと考えています。付近をお通りかかりの節には是非ご覧ください。

ありがとうございました。

温故知新③ 宝寿院の縁起

当地大泉町に伝わる伝承（故内田伝次郎氏説）によると、楠木正成の嫡子正行の妻加富貴御前は、正行が大坂四条畷の戦いで討ち死にした後、南朝の再起を図るために、十六人の家臣団（小泉十六氏）と共に、父の常陸国の国守楠木正訓を頼って上野国（現群馬県）に下向してきたということがある。しかし、頼みの父楠木正訓が既にこの世にないことを知り、当地小泉（現大泉町）の地で南朝再起の機会をうかがいつつ、正行ほか楠木一族の供養のため、法志庵という名の草庵を建て、剃髪して尼となったという。この法志庵が宝寿院の前身である。伝承では、加富貴御前は応永9年（1402）に66歳で亡くなっている。その後、御前の霊が白蛇となって現れるようになり、家臣たちは、御前と楠木正成・正行父子を弔うために尉兼（いけん）明神として祀ったという。

この尉兼明神という名称は、楠木正成・正行父子の官途左衛門尉兼河内守に由来しているものと思われる。

ところで、この常陸国の国守楠木正訓という名や記録は、どの文献にも見あたらない。

い。しかし、楠木正成の弟または従兄弟とも言われる楠木正家（正邦）が代官として治めた瓜連荘（現那珂市）という正成の領地は、常陸国（現茨城県）にあったものであり、伝承の楠木正訓という名も、この楠木正家の別名または誤伝の可能性がある。国守も代官を誇張したものかもしれない。

また、楠木正行の妻は、富士山本宮浅間大社大宮司家の富士義勝の娘とする説もあり、楠木正行には、二人の妻がいたことになる。

また、楠木正行の決死の覚悟を察した後村上天皇は、正行を思いとどまらせようと、南朝方屈指の美女、日野俊基卿の娘「弁内侍」（べんのないし）を正室に薦めたという。弁内侍は正行の死を悲しみ、「大君に仕へまつるも 今日よりは 心にそむる 墨染の袖」という歌を詠み、髪を切り尼となって正行の霊を弔ったという。その髪塚は今も残っているが、弁内侍の墓がどこにあるかは不明である。

加富貴（かふき）が旧仮名遣いの当て字なら、読みは「こうき」となり、高貴を連想させる。弁内侍が加富貴御前である可能性も考えられる。

いずれにしても、当地に逃れて来た加富貴御前の出自は定かではないが、十六人の家臣団を引き連れてきたという小泉十六氏の伝承や、近年まで残っていた御前宿という地名、さらに、南朝方の忠臣として活躍した児島高德開創の高徳寺やその墓が当地大泉町古海に現存すること、また、近隣の館林市には、楠木正成の首を埋めたとされる楠木神社があること、大泉町が新田氏の本拠地（旧新田郡新田町、現太田市）に近いことなどから、伝承は一定の歴史的事実を色濃く反映しているものと思われる。

ちなみに小泉十六氏とは、先鋒関口門之丞以下、中（那珂？）、真下、久保田、佐藤、内田、山口、飯塚、金子、河内、橋本、金井、川島、飯田、原口の各氏である。（一氏不明）

また、太田市古戸町在住の原口家の現当主原口榮一氏によると、先祖は摂津から来た代々言い伝えられてきたとのことであり、小泉十六氏についても小泉十六騎と言いつつ、い伝えてきたとのことである。

佐藤家でも、先祖は伊勢から移り住んだと言いつつ、い伝えられてきたとのことである。摂津も伊勢も南朝ゆかりの地である。